

令和4年度 シルク博物館 講座

「きものの意匠にみる日本の伝統色・文様とその変遷」

日本において、シルクで作られる代表的なものといえば「きもの」を思い浮かべる方が多いのではないのでしょうか。現代のきものの原型である小袖は近世以降に武家や町人の日常着として発展し、そこには日本人の美意識が美しい色や文様として、さまざまな技法を用いてあらわされてきました。

そのような色や文様は、各時代においてその時々流行によってさまざまに進化、変容し、現代に至るまで絶えることなく受け継がれています。

この講座では、「きもの」を通して、日本における伝統的な色や文様に各時代でどのような特徴や流行があったか、また現代に至るまでどのように受け継がれ、変遷したか、ご専門の講師をお招きし深く考察します。



第1回 令和5年 1月14日 (土)

「日本文化の中での色と模様」

共立女子大学博物館長・家政学部教授 長崎巖氏

第2回 令和5年 2月12日 (日)

「桃山～江戸時代の衣装デザインにみる、流行の変遷」

東京国立博物館 調査研究課 工芸室室長 小山結弦葉氏

第3回 令和5年 3月11日 (土)

「変わりゆくきもの—幕末から昭和初期」

国立歴史民俗博物館 情報資料研究系 准教授 澤田和人氏

主催：シルク博物館

会場：シルクセンタービル地下1階 大会議室

時間：各回とも14:00～16:00

(受付は30分前から)

参加費：無料 (別途入館料が必要)

対象：成人 (大人の方向けの内容です)

定員：20名 (先着順・定員に達し次第受付終了)

申込方法：お電話にて事前申し込み

参加希望の回をお伝えください。

※すべての回へのご参加も可能です。

(都度入館料が必要)

申込募集期間：令和4年11月25日(金)～

12月25日(日)



小袖 藍縮緬地松竹梅に鶴鴛鴦模様染織 江戸後期 (当館蔵)

(お問い合わせ・申込先)

シルク博物館

〒231-0023 横浜市中区山下町1番地

(TEL) 045-641-0841

※新型コロナウイルス感染症拡大の状況により、
内容に変更が生じる可能性があります。

